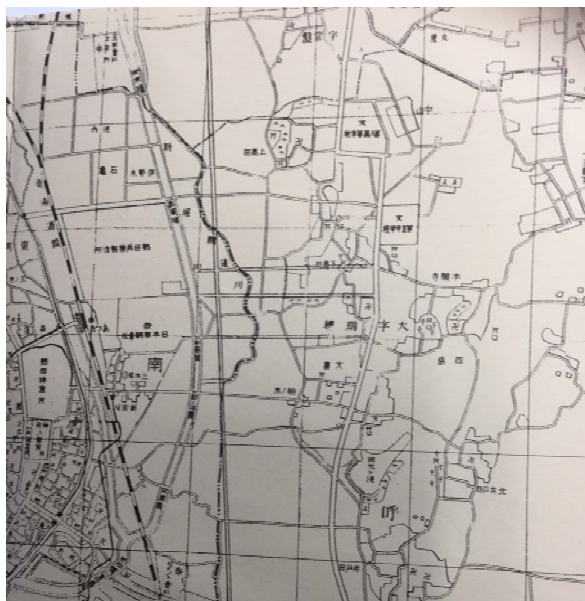


## 「郡道」をゆく（続続）

はじめに謝らなくてはならない。恥ずかしながら「郡道」の位置を勘違していたようで、とりあえず本レポートで訂正させていただきたい。

「ウェルネスはやし鍼灸院」に行った帰りがけに、院長先生から、地元の人によると「郡道」はすこし東の通りだという。滝子商店街をまっすぐ南へ行く道だと、ずっと思い込んでいた。先週土曜には鍼灸院から滝子キャンパスまで歩き、それをレポートしたところだ。どうも気になり、都市センターで探したが、はっきり分からずイライラした。

家にあった大正4年の「古地図」を広げると、写真の上の方にあるように「郡道」らしき道が八高で東に曲がり、それから南に伸びている。名大図書館で『東海都市地図』昭和12年の地図で確認しても、「郡道」の位置は東寄りの感じだ。



池田誠一『なごやの古道・街道を歩く』を思い出しページをめくると、「郡道 千種街道」のところに、大正中頃の郡道の地図があり、そこでも八高で東に曲がっている。「愛された郡の道」として、次のように書かれている。「まったくの新道として、

トップをきってできたため地元からも『郡道』の名で呼ばれ始めたように思えます。学校への沿線には学生向けの商店街ができ、---- そして昭和の初めには路線バスが走り出します。そのバスも郡道バスと呼ばれ、商店街の活気とともに『郡道』の名は名古屋の中で定着していったのではないのでしょうか。昭和41年（1966年）、車両制限令で、一定の幅のない道路では車両が走れないようになりました。郡道は道幅が狭かったため大型車の通行はできなくなり、バスは別のルートに変わりました。」

ずっと勘違い、「思い込み」していて、なんとも恥ずかしものだ。それも八高（現在の名市大滝子キャンパス）南で東に曲がっていることを知らなかったとは。いま考えると、八高時代の正門は南側にあった。有名な正門は犬山の明治村に寄贈された。そこはごみステーションとなっている。「郡道」をゆく（続続）ではなく、（ゾクゾク）という気分だ。「郡道」について、「ぐんぐん」調べていきたい。

（2015年3月22日）